

どうする奈良 ■現場から見える課題と解決が示唆する持続可能性奈良■ どうする日本

福祉

福祉の本質と未来を考える

とらい・あんぐるグループは20年以上にわたり、介護支援事業を展開してきた。2016年からは宇陀市で放課後等デイサービス「かがやキッズ」を開業し、昨年1月には田原本町、同年10月には広陵町で放課後等デイサービスを開いた。今後、障がい者の事業所を数か所開設し、障がい者への支援事業を拡充する。人材不足や低所得などの介護業界の課題と向き合い、また「障がい」という答えのない世界で障がい者福祉の在り方を模索する同グループの田中英俊代表取締役社長とスタッフにお話をうかがった。

田中英俊氏

とらい・あんぐるグループ代表取締役社長

福祉業界の課題と向き合い共生社会目指す

▼とらい・あんぐるグループの今後の経営ビジョンは 甲 当社は昨年11月に20年を迎え、スタッフも300人を超えて、介護から障がい者福祉全般に業態を広げています。私は今年60歳を迎え、あと10年で完全に経営を後進へ引き継ぎたいと考えています。約20事業所ある中で、経営者を作るBYD(Build your team)のプロジェクトを推進しており、現在3人のスタッフが経営者になりました。障がいについては未定ですが、介護では今後さらに事業所の振分けを進めていきたいです。

座談会

宮沢真理子さん

北 宇陀市榛原にある「かがやキッズ」では、園や学校で頑張った子どもたちがお家に帰るまでのほっと一息つける場所、安心して通える場所になるような事業所を目指しています。

北 愛実さん

の児童発達支援の子どもたちも多く、発語がない子どもたちも多いため、子どもに対する状況判断が難しいです。そのため、子どもたちの行動の背景をしっかりと見極める必要が求められます。

答えのない世界で障がい者福祉の在り方模索

とらい・あんぐるグループの児童発達支援の子どもたちも多く、発語がない子どもたちも多いため、子どもに対する状況判断が難しいです。そのため、子どもたちの行動の背景をしっかりと見極める必要が求められます。

とらい・あんぐるグループの児童発達支援の子どもたちも多く、発語がない子どもたちも多いため、子どもに対する状況判断が難しいです。そのため、子どもたちの行動の背景をしっかりと見極める必要が求められます。

とらい・あんぐるグループの児童発達支援の子どもたちも多く、発語がない子どもたちも多いため、子どもに対する状況判断が難しいです。そのため、子どもたちの行動の背景をしっかりと見極める必要が求められます。



障がいをもつ子どもたちが社会生活を送れるよう日々スタッフが支援している=広陵町馬見中の「すてき・みらい広陵」

とらい・あんぐるグループの児童発達支援の子どもたちも多く、発語がない子どもたちも多いため、子どもに対する状況判断が難しいです。そのため、子どもたちの行動の背景をしっかりと見極める必要が求められます。



ハンモックやボルダリングなどの感覚統合運動も取り入れている=田原本町八尾の「すてき・みらい田原本」

「すてき・みらい田原本」で焼き芋販売 田原本町八尾の「すてき・みらい田原本」で先月29日、利用者の障がいのある子どもたちが焼き芋販売した。中学生ら利用者の就業準備のきっかけとなった。...

躍進続ける とらい・あんぐるグループ. Advertisement listing various services and contact information for different branches.